

第2章

三島市の歯科保健に関する現状と課題

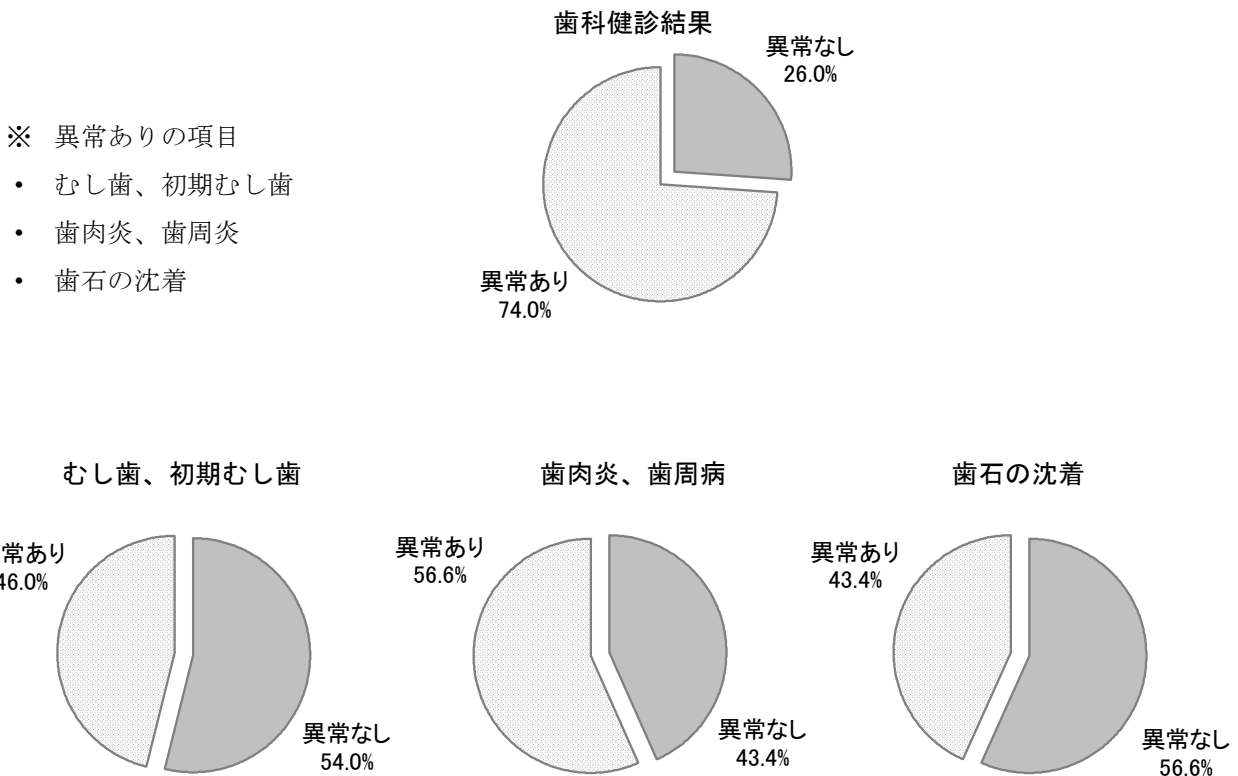
1 歯科保健に関する現状

(1) マタニティセミナー参加者の歯科健診結果

三島市マタニティセミナー参加者の歯科健診の結果では、異常なし26.0%、異常あり74.0%で、異常ありの方が、異常なしの方の約3倍となっています。異常ありの内訳は、むし歯・初期むし歯が46.0%、歯肉炎・歯周炎が56.6%、歯石の沈着が43.4%となっています。

また、参加者は113人と少なく、全妊婦の約1割となっています。

図 マタニティセミナー参加者の歯科健診結果



資料：三島市マタニティセミナー参加者 歯科健診結果（平成23年度）

(2) 未就学児のむし歯の状況（乳歯）

① 幼児のむし歯有病者率（処置歯を含む）の状況

むし歯数及び有病者率の推移をみると、各年代でむし歯数及び有病者率ともに年々減少傾向となっており、県平均と比較して低くなっていますが、3歳児から5歳児にかけ、むし歯数及び有病者率は、急激に高くなっています。

図 1 歳6か月児むし歯数及び有病者率の推移

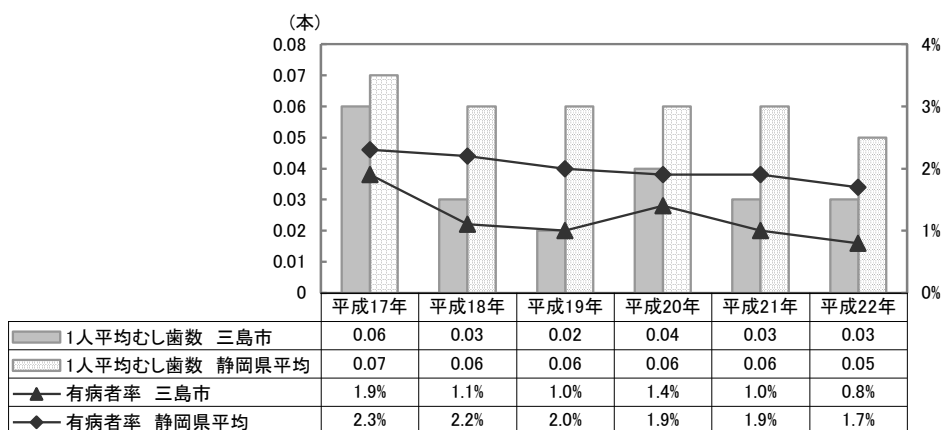


図 3 歳児むし歯数及び有病者率の推移

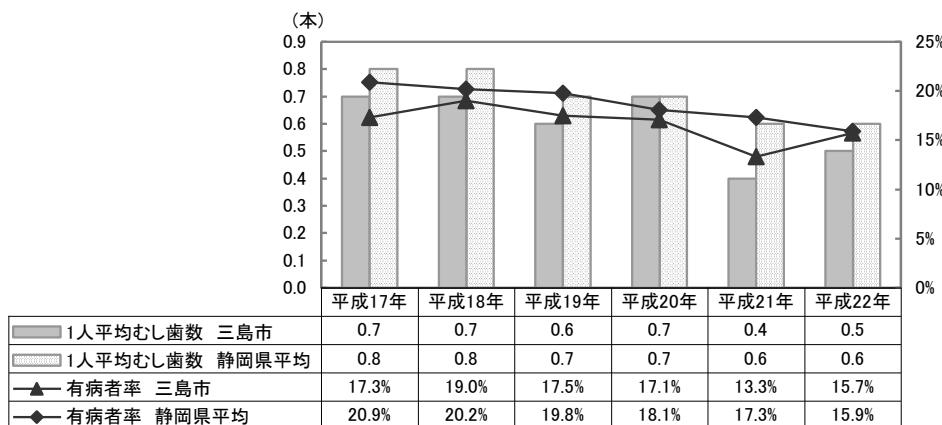
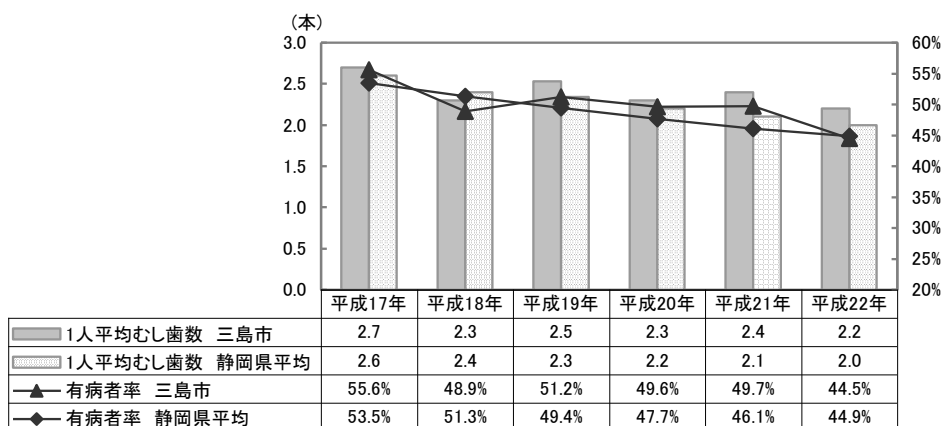


図 5 歳児むし歯数及び有病者率の推移

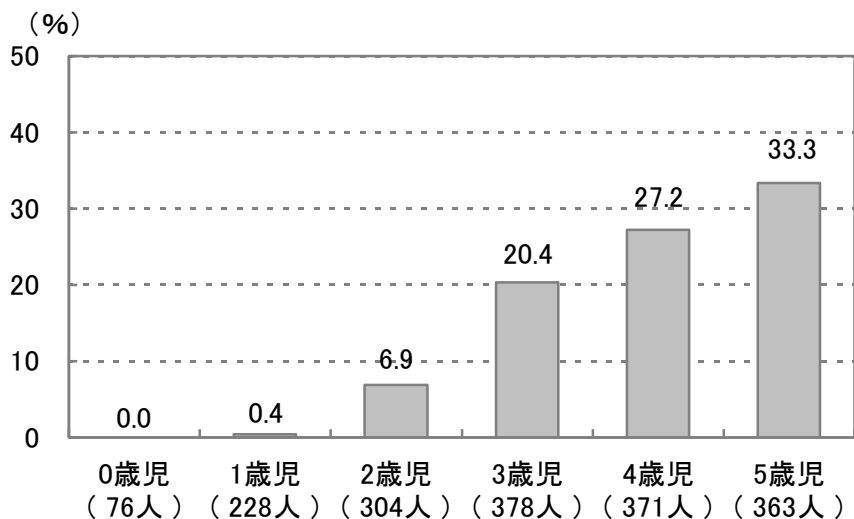


資料：静岡県歯科健康診査結果（平成22年度）

②就園児のむし歯の状況

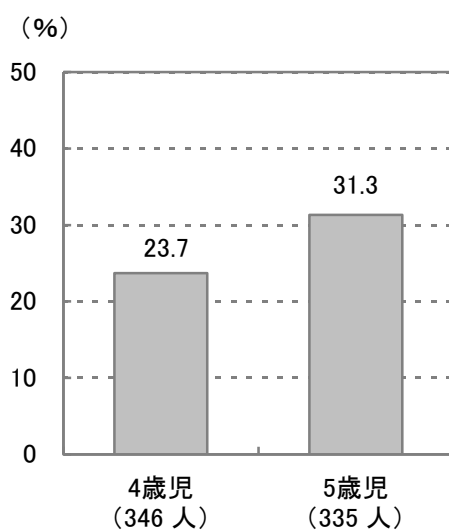
むし歯のある就園児の率は、年齢が上がるにつれ高くなり、5歳児で就園児の約3人に1人が治療を必要とするむし歯に罹患しています。

図 むし歯のある保育園児の率（市内公立・私立 18園）



グラフの（）内の数値は各年齢の母数
資料：三島市子育て支援課調査（平成23年度）

図 むし歯のある幼稚園児の率（市内公立 12園）



資料：三島のこども（平成23年度）

(3) 小学生、中学生のむし歯の状況（永久歯）

①小学生、中学生のむし歯有病者率（処置歯を含む）の状況

小学生、中学生の永久歯のむし歯有病者率は学年が上がるにつれ高くなり、中学2年生、3年生では5割以上となっています。また、平成21年度静岡県歯科健康診査結果において、小学生、中学生ともに永久歯のむし歯有病者率は、県平均より高くなっています。

図 小学生歯科健診むし歯有病者率（永久歯）

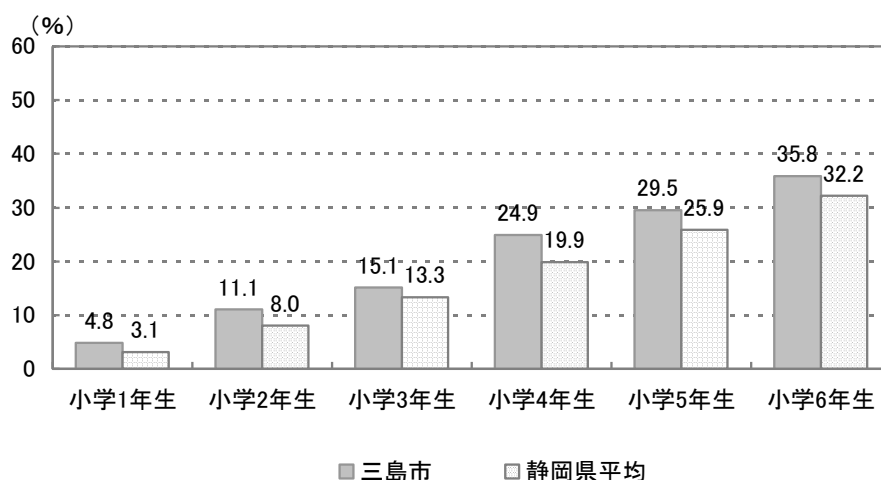
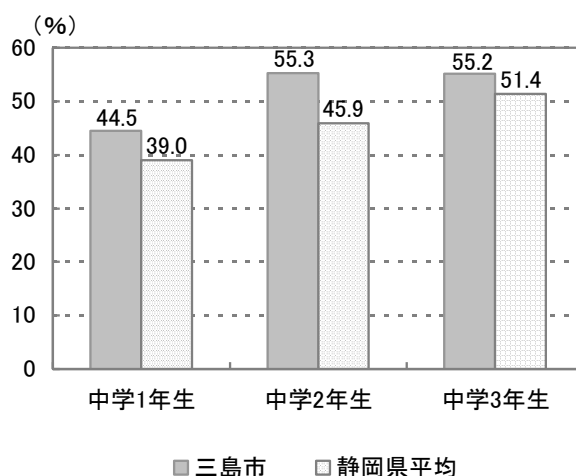


図 中学生歯科健診むし歯有病者率（永久歯）

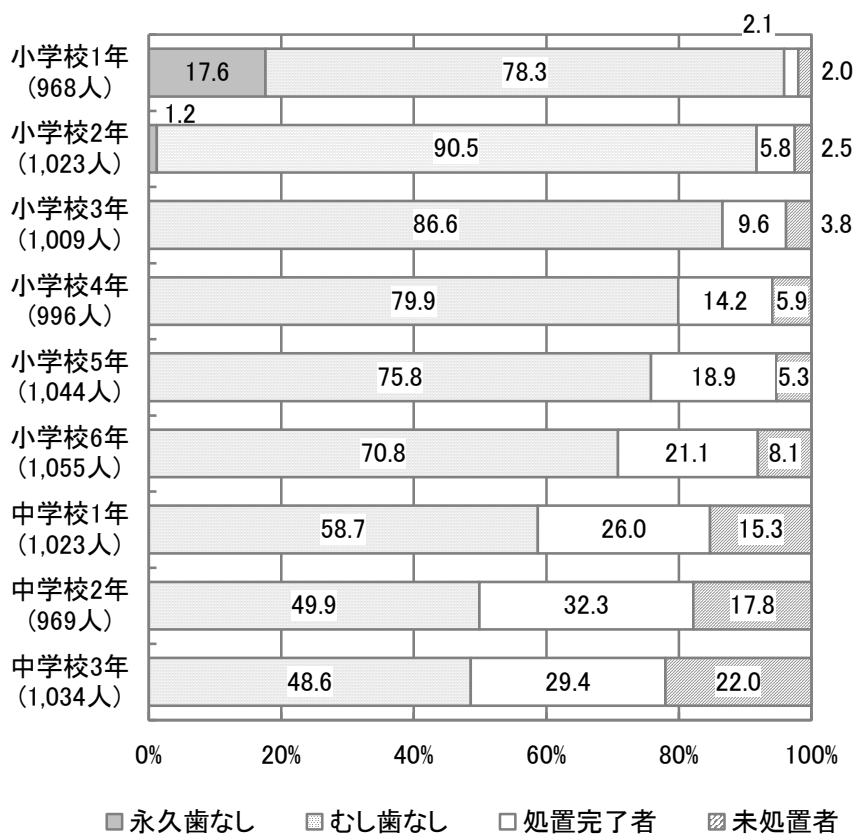


資料：静岡県歯科健康診査結果（平成21年度）

②小学生、中学生のむし歯の処置状況

小学生、中学生のむし歯の処置状況をみると、学年が上がるにつれ、未処置者の割合が高くなっています。

図 小学生、中学生のむし歯の処置状況



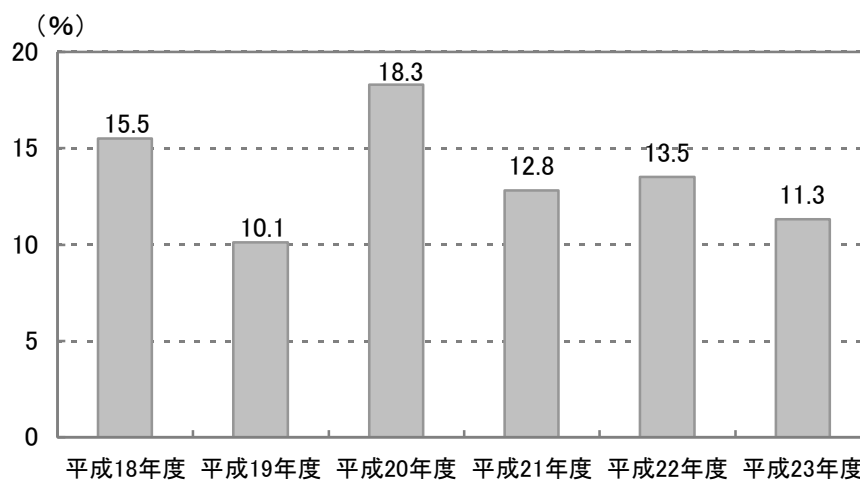
グラフの () 内の数値は各年齢の母数
資料：三島のこども（平成23年度）

(4) 3歳児の不正咬合の状況

3歳児歯科健診において、何らか不正咬合の所見が認められた児の割合は若干のバラつきはありますが、減少傾向にあります。

※ 不正咬合とは・・・上下の歯が適切に噛み合っていない状態をいう。

図 3歳児の不正咬合の状況



資料：三島市3歳児健康診査実績

(5) 静岡県幼児歯科アンケート調査

県が4歳児の保護者に実施した調査結果によると、甘いおやつを与え始めた時期とむし歯の有無の状況を見ると、甘いおやつを与え始めた時期が早いほど、むし歯のある割合が高く、1歳未満で与え始めた場合では3人に1人の割合でむし歯になっています。

また、母乳、哺乳ビンの中止時期とむし歯の有無の状況を見ると、母乳、哺乳ビンの中止時期が遅すぎるほど、むし歯のある割合が高くなっており、2歳過ぎで約4割となっています。

図 甘いおやつの与え始めた時期とむし歯の有無

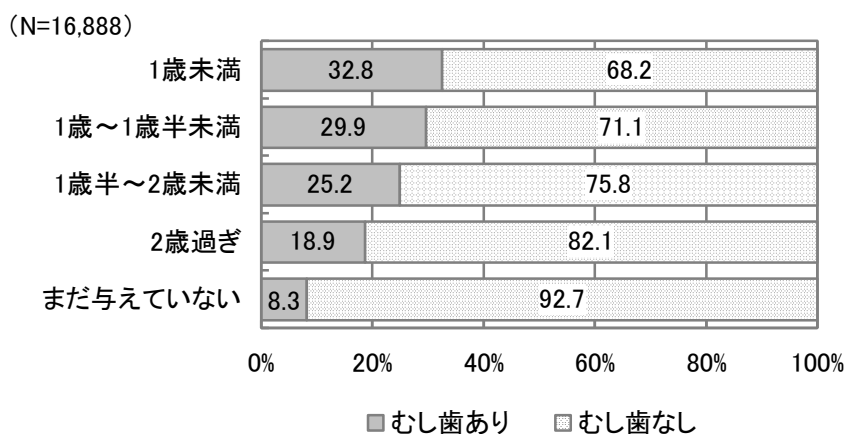
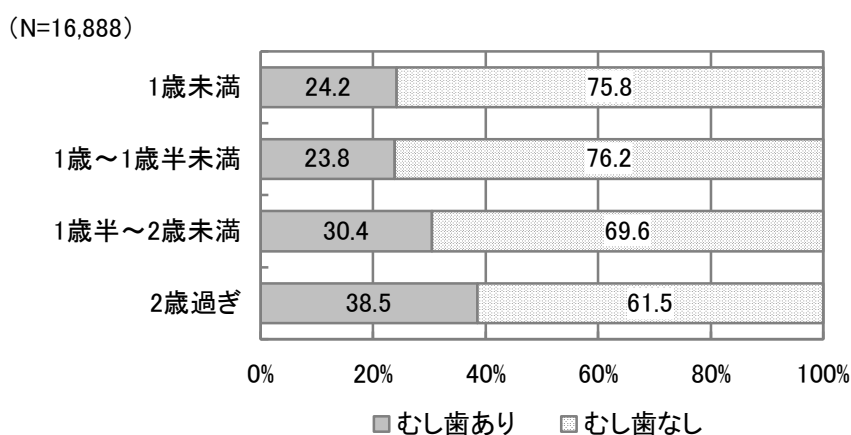


図 母乳、哺乳ビンの中止時期とむし歯の有無



資料：静岡県幼児歯科アンケート調査（平成18年度）

(6) 歯周病検診結果

市が実施している歯周病検診の受診者数は平成 23 年度で 616 人、受診率は年々増加傾向にあります。全体に占める割合は 1 割程度と低い状況です。

検診結果は、平成 17 年度を除き、歯周病やむし歯などの所見で要精検・要治療となった人は 7 割台となっています。要精検・要治療者のうちの約 9 割以上が継続受診に繋がっています。

※ 歯周病検診とは・・・口腔内の異常や歯科疾患の有無を早期に発見し、治療や適切なケアにつなげるために、節目年齢の方（40～70 歳まで 5 歳ごと）を対象に行う歯や歯ぐきの検診

図 歯周病検診の受診者数と受診率の推移

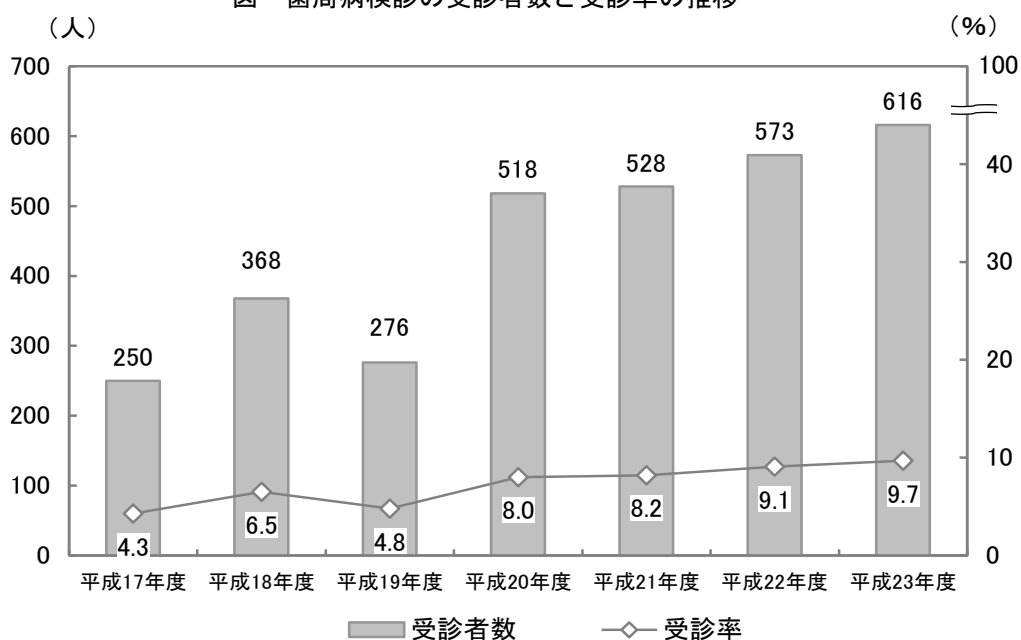


図 検診結果の年次推移

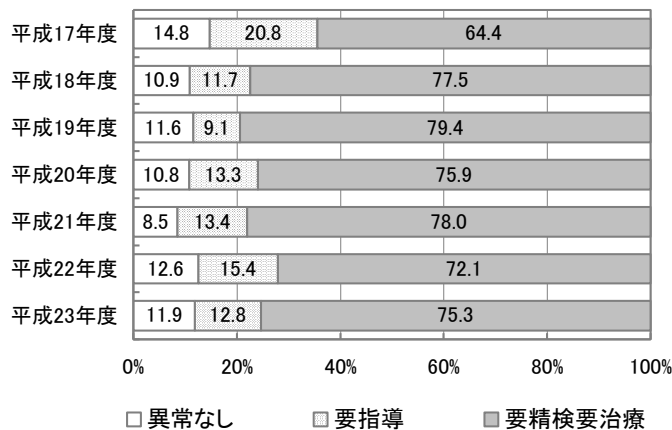
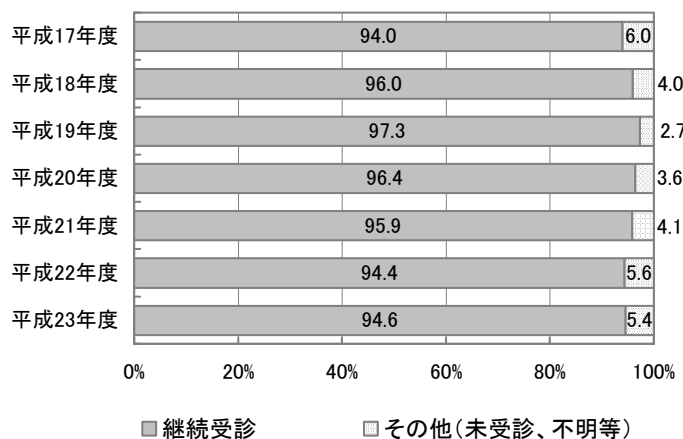


図 歯周病検診要精検・要治療者継続治療割合



資料：三島市健康づくり課事業実績報告書（平成 17～23 年度）

(7) 高齢者の口腔の状況

①口腔機能低下該当者の状況

特定高齢者事業の対象者を把握する為の基本チェックリスト調査の結果によると、口腔機能低下に該当する人の割合は、回答者のうちの15.7%となっています。

※ 特定高齢者とは・・・基本チェックリストの該当項目により、口腔機能向上・運動機能向上・栄養改善等の介護予防プログラムが提供される介護予防事業に参加することが望ましいと判定された65歳以上の人。

表 特定高齢者（口腔機能低下該当者）の状況

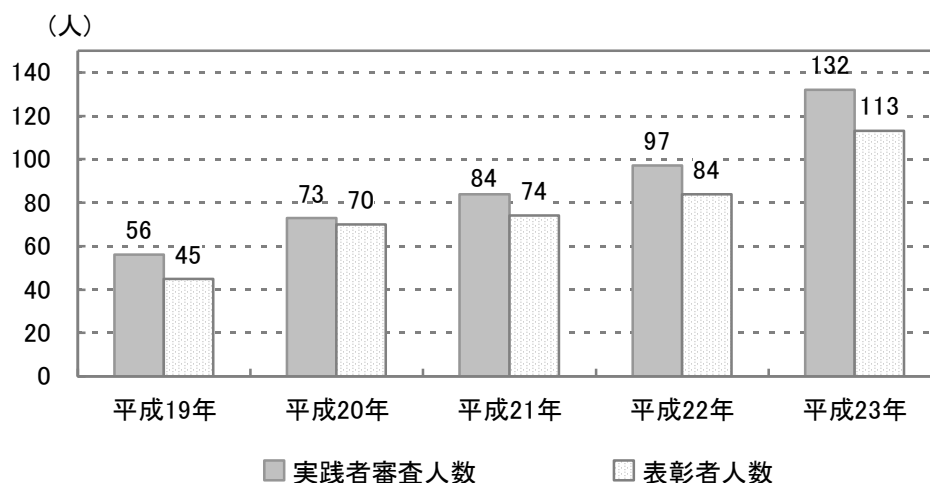
	基本チェックリスト 回答者数(人)	特定高齢者 該当者(人)	口腔機能低下 該当者(人)	口腔機能低下 該当率(%)
男性	8,425	1,927	1,336	15.9%
女性	10,181	2,992	1,593	15.6%
全体	18,606	4,919	2,929	15.7%

資料：三島市長寿介護課調査（平成23年度）

②8020運動実践者審査の状況

歯の健康まつりの総来場者数はここ数年1,000人前後となっていますが、そのうち8020運動実践者の審査を受けるために来場した人、審査の結果表彰を受けた人の数は年々増加しています。

図 8020 運動実践者審査と表彰者数



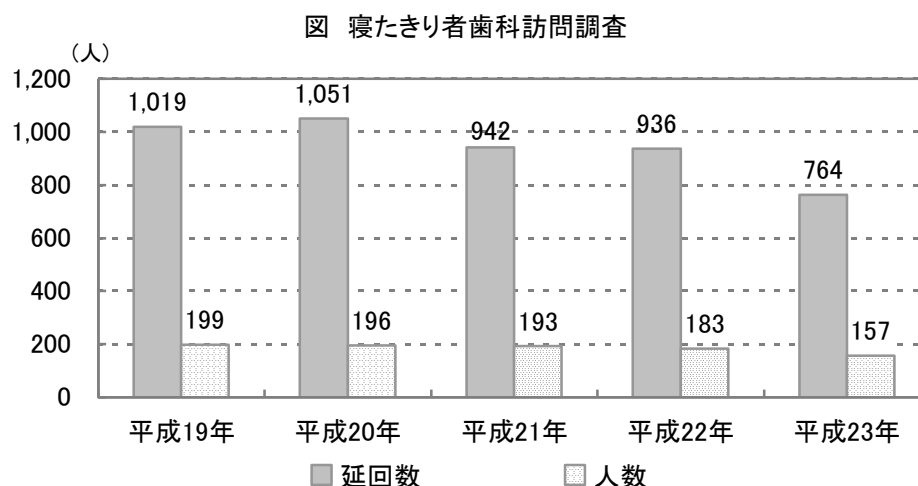
資料：三島市健康づくり課事業実績報告書（平成19～23年度）

(8) 寝たきり者・障害児（者）歯科事業

①寝たきり者歯科訪問調査事業の状況

寝たきりで歯科受診が困難な状態にある市民に対し、歯科医師が訪問による歯科診査を実施し、診療につなげる寝たきり者歯科訪問調査事業を平成3年から継続して実施しており、毎年多くの利用があります。

また、居宅介護支援事業所のケアマネジャーへの調査結果によると、在宅で寝たきりなどの理由により歯科受診が困難で治療を要する方は111名います。



資料：三島市健康づくり課事業実績報告書（平成19～23年度）

表 寝たきり者歯科訪問調査利用該当者実態調査

	調査居宅介護支援事業所数	利用該当者数
寝たきり者歯科訪問調査利用該当者	24	111

資料：三島市地域包括支援室実態調査（平成24年度）

②障害児（者）歯科診療事業の状況

心身に障がいのある市民を対象に、県の指定を受けた障害者歯科相談医による診療を実施する障害児（者）歯科診療事業において、平成23年度の利用者数は174人、実施回数は567回となっています。

表 障害児（者）歯科診療事業の状況

	18歳未満			18歳以上			合計
	男	女	小計	男	女	小計	
人数（人）	35	14	49	93	32	125	174
延べ回数（回）	121	43	164	322	81	403	567

資料：三島市障がい福祉課実績報告書（平成23年度）
※委託医療機関は市内19か所

2 医療に関する現状

(1) 歯科診療所の状況

三島市の歯科診療所数は平成 22 年 10 月 1 日現在、62 か所となっています。10 万人あたりの歯科診療所数をみると、三島市は 55.4 か所となっており、東部保健所内と同程度、県平均よりは高くなっています。

表 歯科診療所の状況 単位：か所

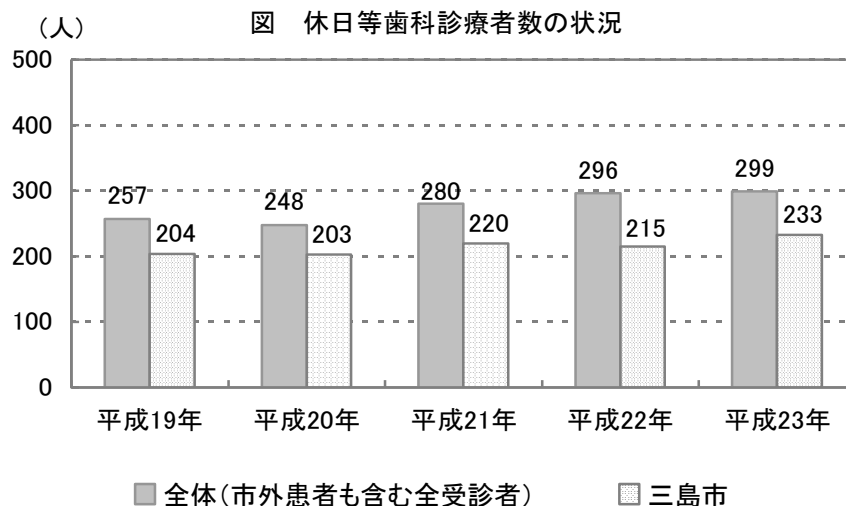
	歯科診療所数	人口 10 万人当たりの 歯科診療所数
三島市	62	55.4
沼津市	138	68.2
裾野市	20	36.7
伊豆市	14	40.9
伊豆の国市	28	56.8
函南町	16	41.5
清水町	21	65.0
長泉町	13	31.9
東部保健所	312	(保健所内平均) 55.3
静岡県	1,772	(県平均) 47.1

資料：厚生労働省「医療施設調査」（県所管：健康福祉部管理局政策監）

(2) 休日等歯科診療の状況

三島市では、平成 14 年度より三島市歯科医師会の協力を得て、休日等歯科診療事業を実施しています。

平成 23 年度の休日等歯科診療者数は、市外患者も含む全受診者は 299 人、三島市の受診者は 233 人となっています。一定の休日等歯科診療のニーズがあることが分かります。



資料：三島市健康づくり課事業実績報告書（平成 19～23 年度）

(3) 国民健康保険及び後期高齢者診療費の状況

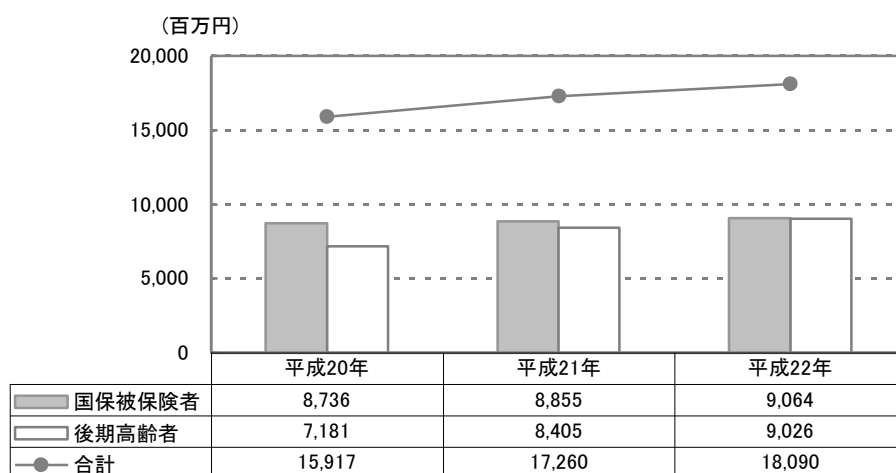
①診療費全体

診療費の総費用額の推移をみると年々増加傾向にあり、平成22年度で約180億9千万円となっています。

保険者種別でみると、平成22年では国保被保険者と後期高齢者の診療費総費用額がほぼ同じとなっています。

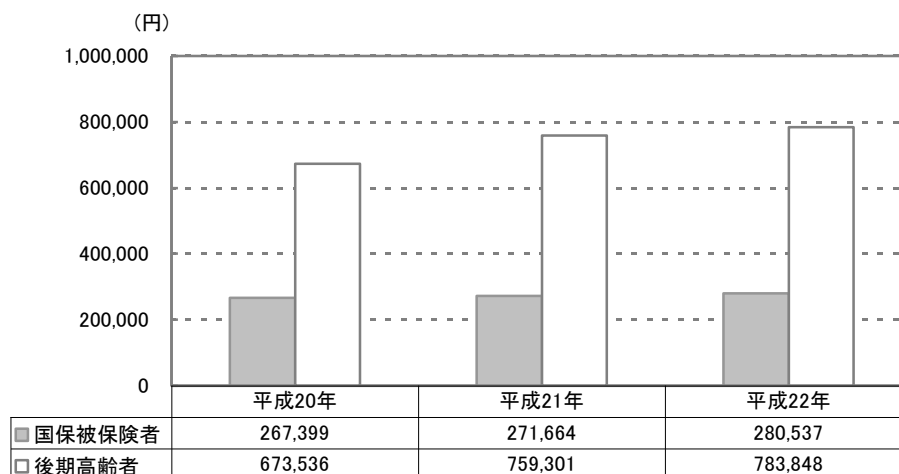
一人当り費用額の推移は、国保被保険者、後期高齢者ともに増加し、特に後期高齢者の増加が目立ちます。

図 保険者種別総費用額の推移



(百万円未満 四捨五入)

図 保険者種別一人当り費用額の推移



資料：三島市国保事業年報

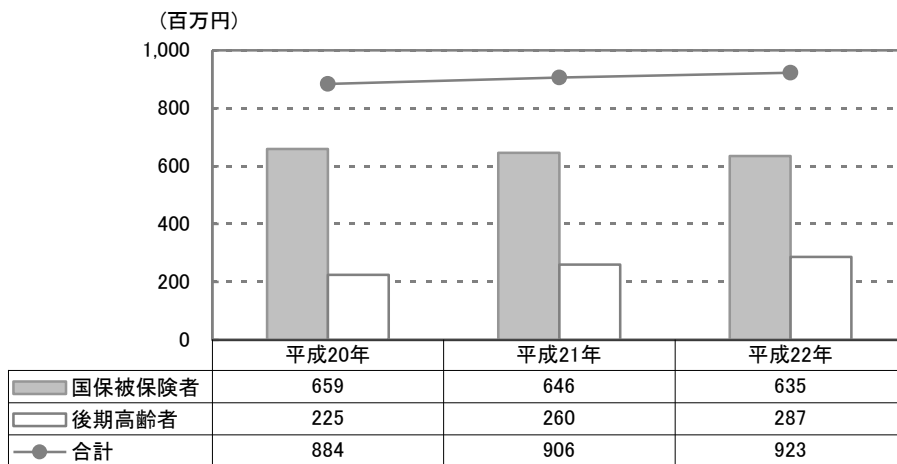
② 歯科診療費

歯科診療費用額の推移をみると、わずかに増加傾向にあり、平成22年度で約9億2千3百万円となっています。

保険者種別でみると平成20年以降、後期高齢者で増加傾向にあります。

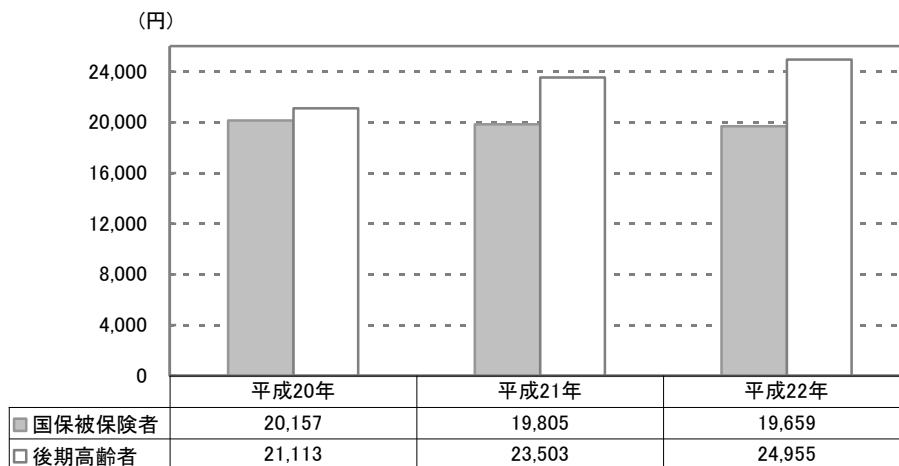
一人当たり費用額の推移は、国保被保険者は減少し、後期高齢者は増加しています。

図 保険者種別歯科診療費用額の推移



(百万円未満 四捨五入)

図 保険者種別一人当たり歯科診療費用額の推移



資料：三島市国保事業年報

(4) 国民健康保険疾病別受診状況

疾病分類受診率（入院外）は、1位が「消化器系の疾患」、2位が「循環器系の疾患」、3位が「歯科」となっています。年齢階級別にみると、20～54歳では「歯科」が「消化器系の疾患」に次いで2位となっています。

表 国民健康保険年齢階級別・疾病分類受診率（入院外） 単位：%

年齢区分	1位		2位		3位	
	疾病分類	受診率	疾病分類	受診率	疾病分類	受診率
0～4歳	呼吸器系の疾患	37.45	感染症及び寄生虫症	10.24	皮膚及び皮下組織の疾患	9.72
5～9歳	呼吸器系の疾患	28.07	消化器系の疾患	16.60	歯科	15.90
10～14歳	呼吸器系の疾患	15.56	消化器系の疾患	8.76	歯科	8.45
15～19歳	呼吸器系の疾患	6.04	眼及び付属器の疾患	5.12	消化器系の疾患	4.94
20～24歳	消化器系の疾患	8.57	歯科	6.76	呼吸器系の疾患	5.93
25～29歳	消化器系の疾患	8.79	歯科	7.21	呼吸器系の疾患	5.14
30～34歳	消化器系の疾患	10.71	歯科	8.60	呼吸器系の疾患	6.48
35～39歳	消化器系の疾患	12.43	歯科	9.83	呼吸器系の疾患	5.25
40～44歳	消化器系の疾患	12.57	歯科	9.26	精神及び行動の障害	5.78
45～49歳	消化器系の疾患	12.63	歯科	9.07	精神及び行動の障害	5.92
50～54歳	消化器系の疾患	13.79	歯科	10.78	循環器系の疾患	7.50
55～59歳	消化器系の疾患	15.23	循環器系の疾患	11.86	歯科	11.69
60～64歳	循環器系の疾患	19.90	消化器系の疾患	17.80	歯科	13.66
65～69歳	循環器系の疾患	25.16	消化器系の疾患	22.26	歯科	16.87
70～74歳	循環器系の疾患	34.75	消化器系の疾患	25.45	歯科	19.41
合計	消化器系の疾患	16.76	循環器系の疾患	15.01	歯科	12.99

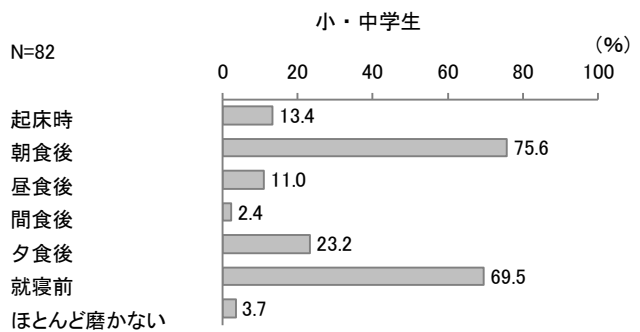
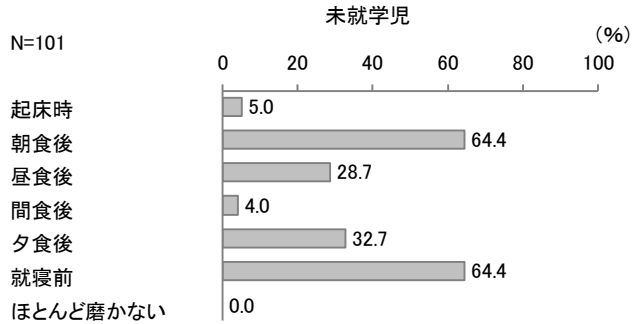
資料： 国保団体連合会資料（23年5月診療分）

3 アンケート調査からの現状

(1) 子どもの歯の健康について

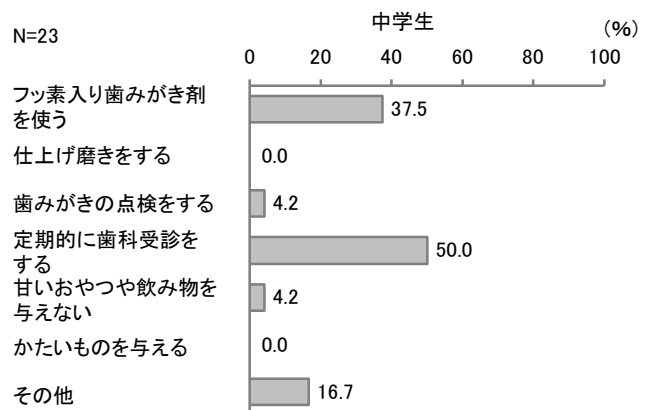
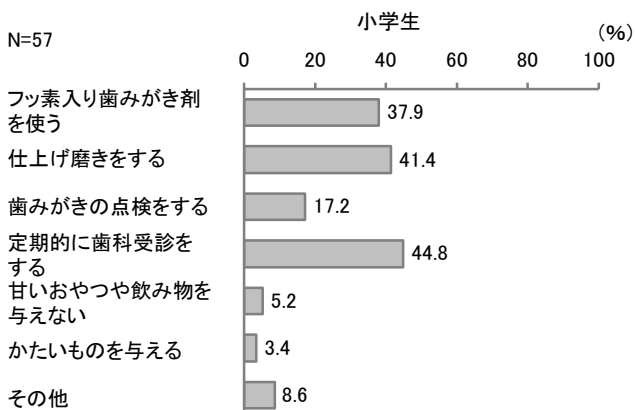
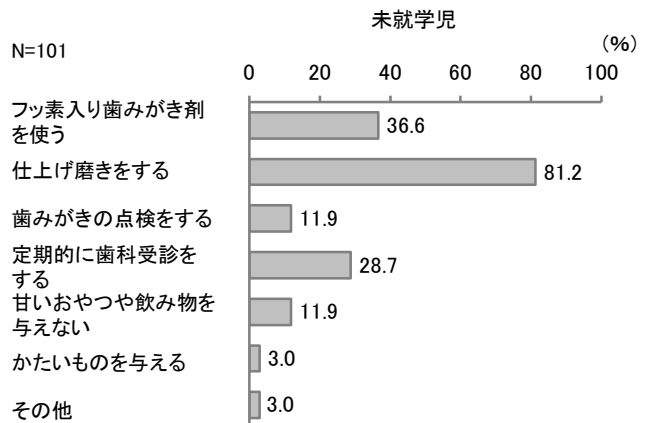
①子どもの歯みがきの状況

子どもの歯みがきの状況を保護者に調査した結果によると、未就学児、小・中学生ともに「朝食後」と「就寝前」に多くの子どもが歯みがきをしています。「昼食後」の歯みがきの実施率は、未就学児は28.7%、小・中学生は11.0%となっています。



②歯や口の中のことについて心がけていること

未就学児や小学生については、仕上げみがきをする割合が高くなっています。年代が上がるにつれ、定期的に歯科受診をする割合が高くなっています。



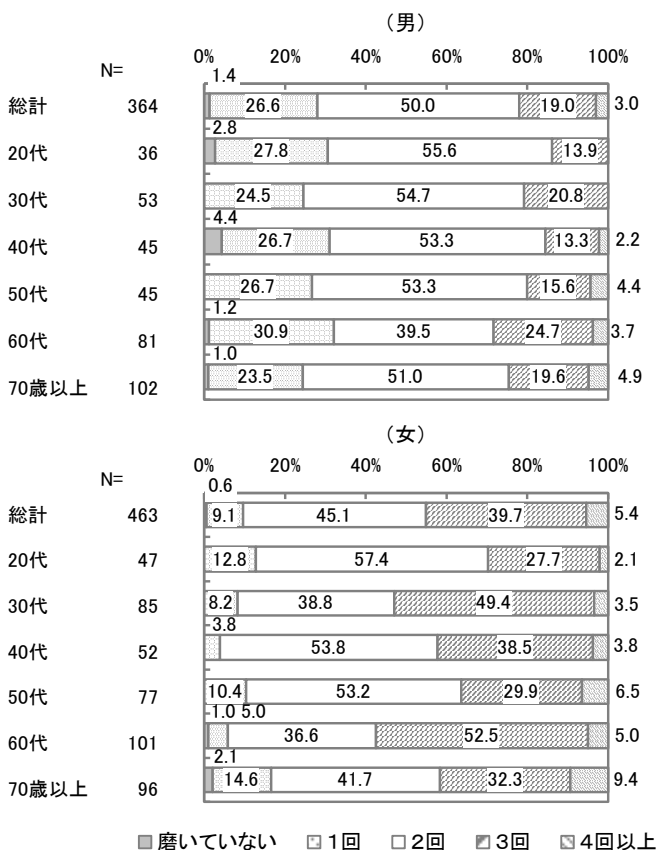
資料: 三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査 (平成 23 年)

(2) 成人の歯みがき習慣

① 歯みがきの回数

男女ともに、「2回」の割合が最も高くなっています。

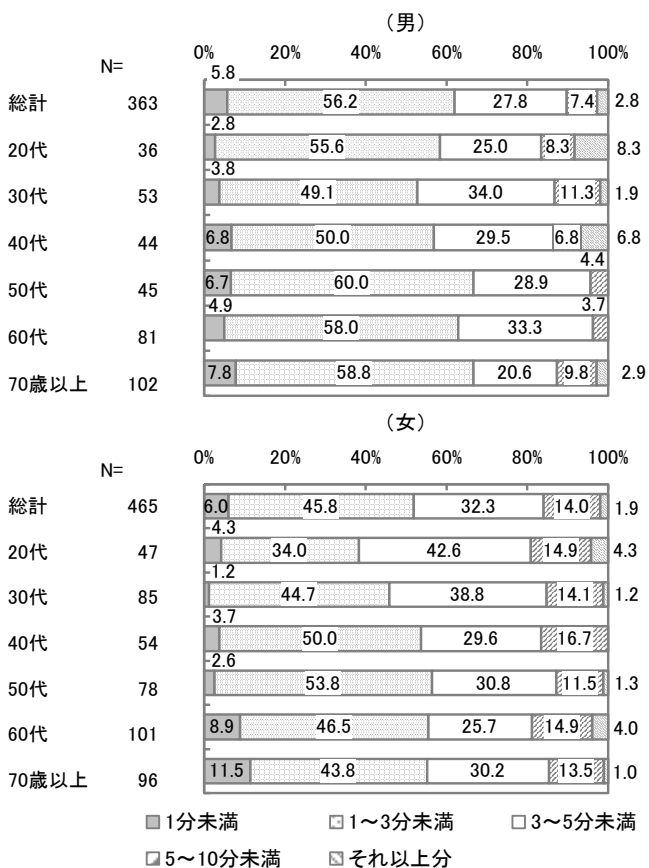
また、男性に比べ、女性では3回以上みがく割合が高く男女差がうかがえます。



② 1日で一番丁寧に歯を磨く時間

男女ともに「1～3分未満」の割合が最も高くなっています。

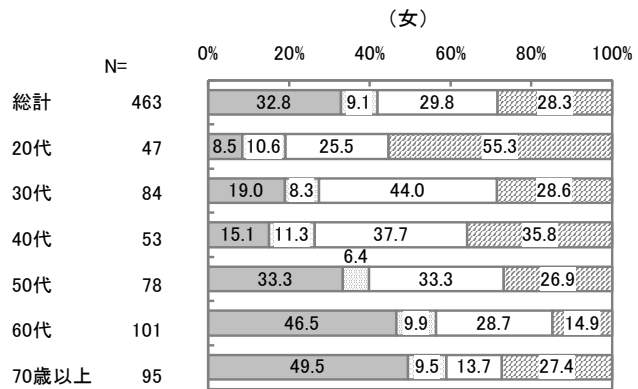
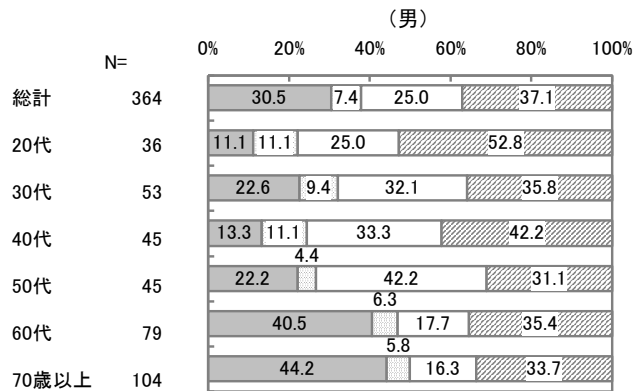
また、男性に比べ、女性では3～5分以上みがく割合が高くなっており、女性は若い人ほど、その割合が高くなっています。



資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成23年）

③ 歯間ブラシの利用状況

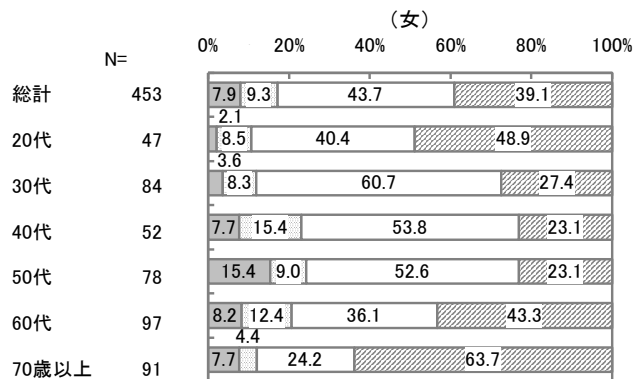
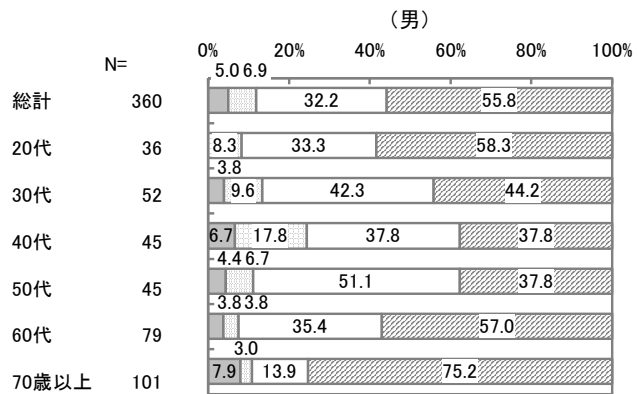
歯間ブラシについては女性で50代から「毎日使う」割合が高くなり、70代では約半数が「毎日使う」習慣があります。



■ 毎日使う □ 週1回以上使う □ 使ったことがある ■ 使ったことがない

④ デンタルフロス（糸ようじ）の使用状況

デンタルフロスについては「毎日使う」「週1回以上使う」人の割合が低く、習慣的には使われていない状況がうかがえます。

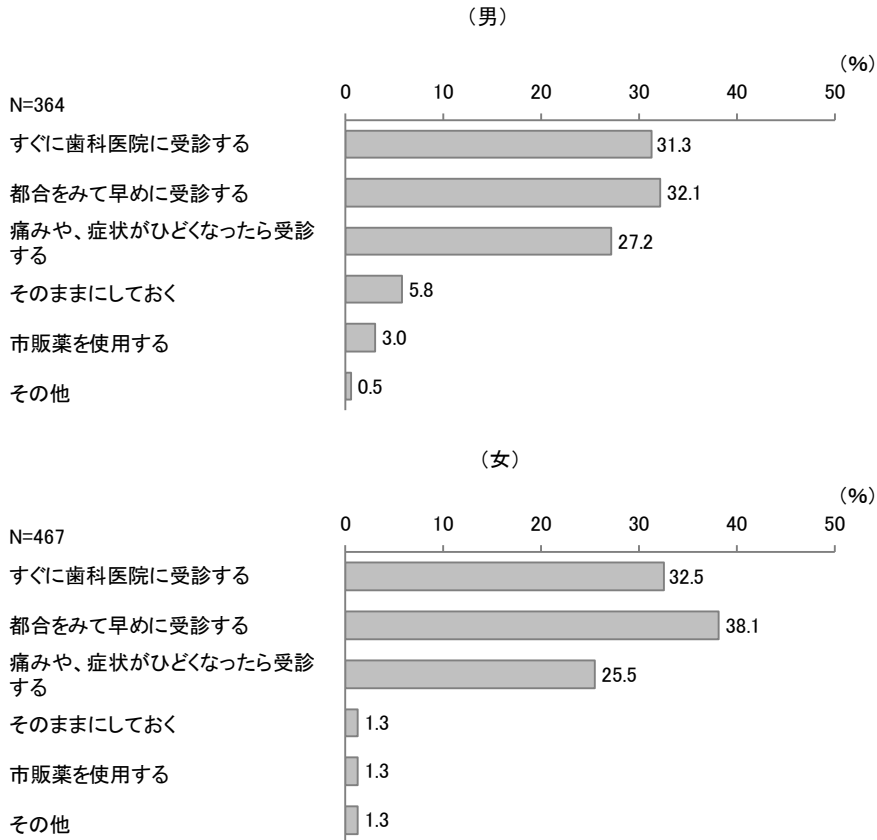


■ 毎日使う □ 週1回以上使う □ 使ったことがある ■ 使ったことがない

資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成23年）

⑤ 歯や歯ぐき、口のことで気になることがあった時の対応

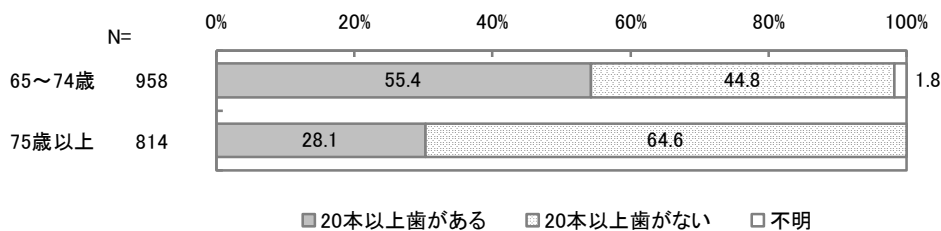
男女ともに「すぐに歯科医院を受診する」「都合をみて早めに受診する」の割合が高くなっています。一方、4人に1人の割合で「痛みや、症状がひどくなったら受診する」状況になっています。



資料：三島市高齢者実態調査（平成 22 年）

（3）高齢者の歯の本数について

自分の歯を 20 本以上有する人の割合は 65～74 歳では 55.4%ですが、75 歳以上では 28.1%と約半分に減少しています。

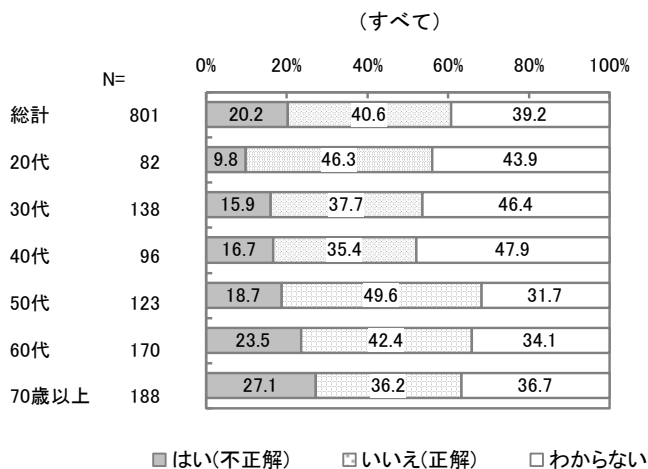


資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成 23 年）

(4) 歯周病に関する理解度

①歯周病になると、すぐに歯肉が痛くなる

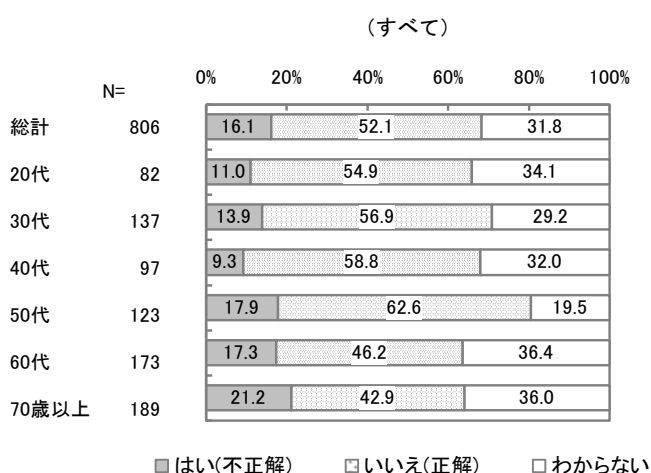
全体では、正解の「いいえ」の割合が約4割で、歯周病と歯肉の痛みとの関係について、正しく理解しています。特に50代は約5割の方が正解しています。



②歯磨きをすれば、歯周病にはならない

歯磨きと歯周病の理解度は50代で約6割となっています。

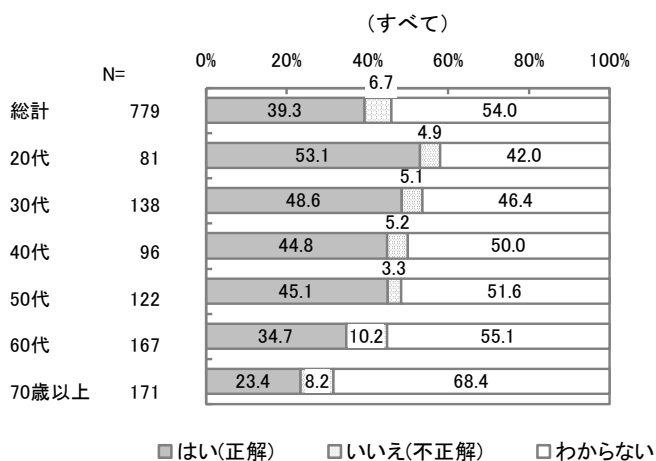
正解の「いいえ」の割合が最も高く、次いで「わからない」、「(誤答の)はい」の順になっています。



③たばこを吸うと歯周病にかかりやすく、悪化しやすい

年代が若くなるにつれて歯周病の理解度があります。

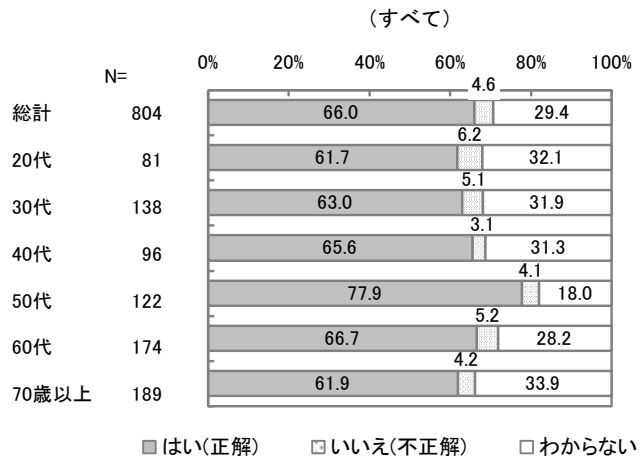
「わからない」割合が最も高く54.0%。次いで、「(正解の)はい」が39.3%、「(誤答の)いいえ」の順になっています。



資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成23年）

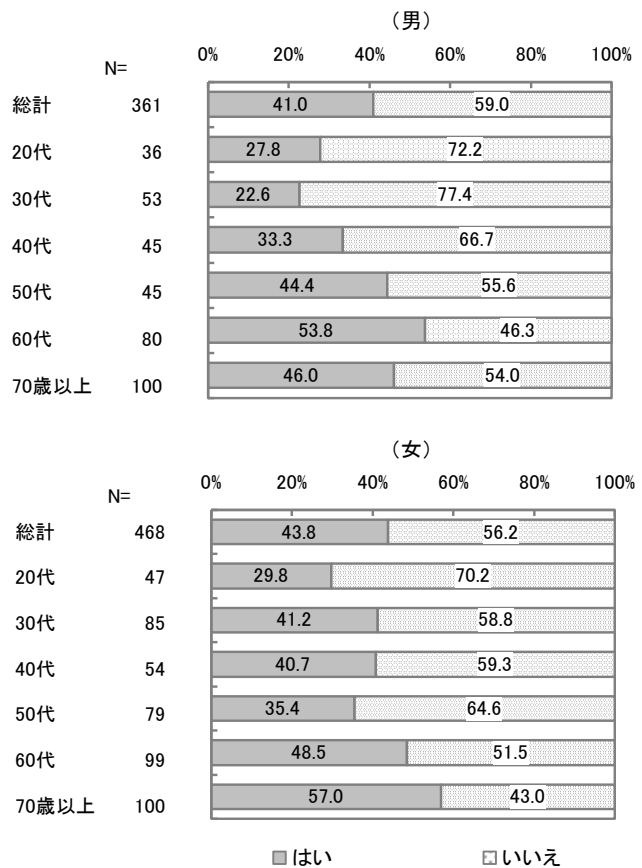
④歯周病は口の中の病気であるが、全身の病気とも関係がある

正解の「はい」の割合が最も高く、全体的に理解度はどの年代も6割以上となっており、特に、50代については、約8割が正解しています。



(5) 年1回以上の歯科健診の受診状況

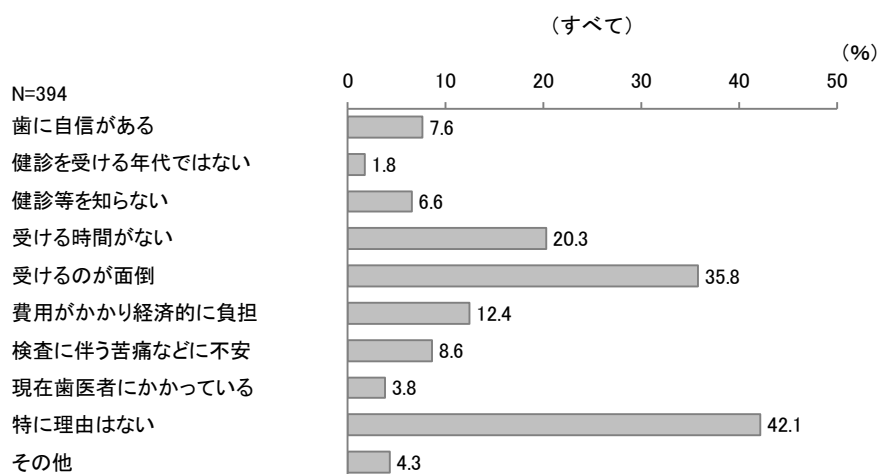
受診している割合は、男女ともに約4割おり、年代が上がるにつれ、受診する割合が高くなる傾向にあります。一方、受診していない割合は、20代男女、30代男性で7割を超え高くなっています。



資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成23年）

(6) 歯科健診を受診しない理由はなんですか

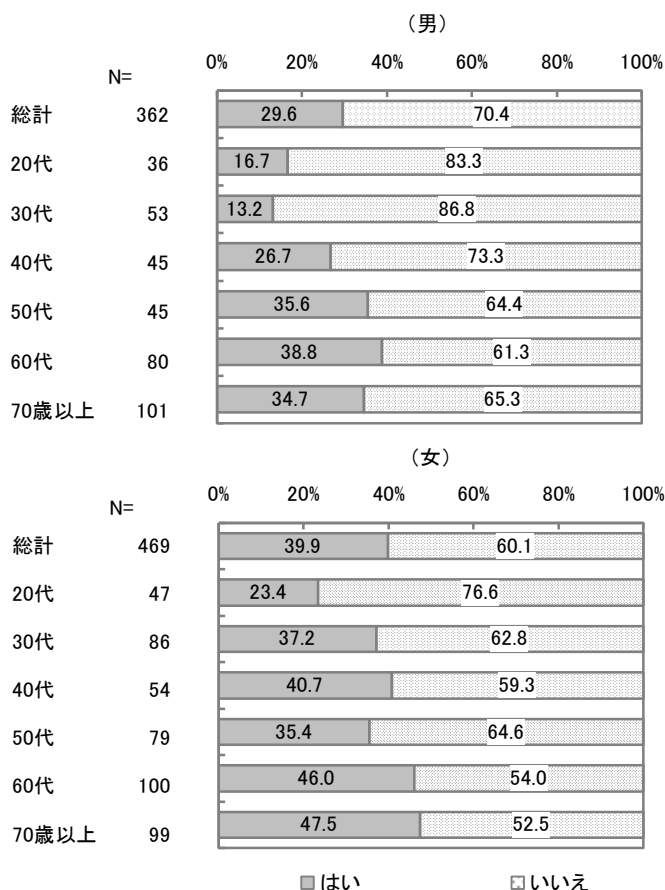
受診しない主な理由は、「特に理由はない」、「受けるのが面倒」、「受ける時間がない」の順で割合が高くなっています。



(7) 定期的な歯科医院での歯面清掃（歯垢・歯石除去等）の受診状況

受診している割合は男性で約3割、女性で約4割となっています。全体的に男性に比べ、女性が受診している割合が高くなっています。

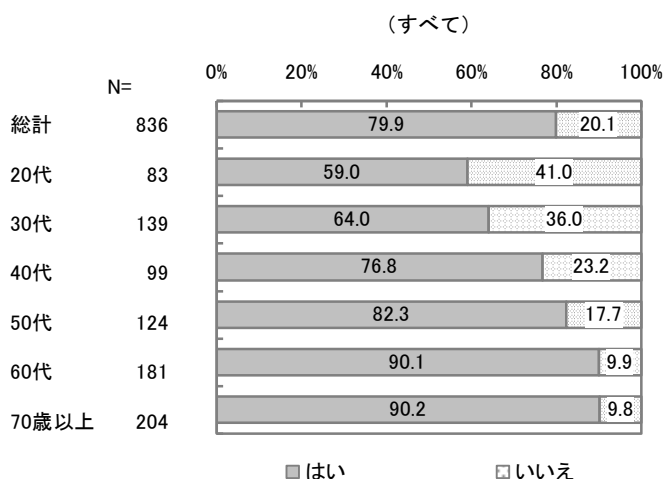
一方、20代、30代の男性が受診している割合は、10%台と低い割合になっています。



資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成23年）

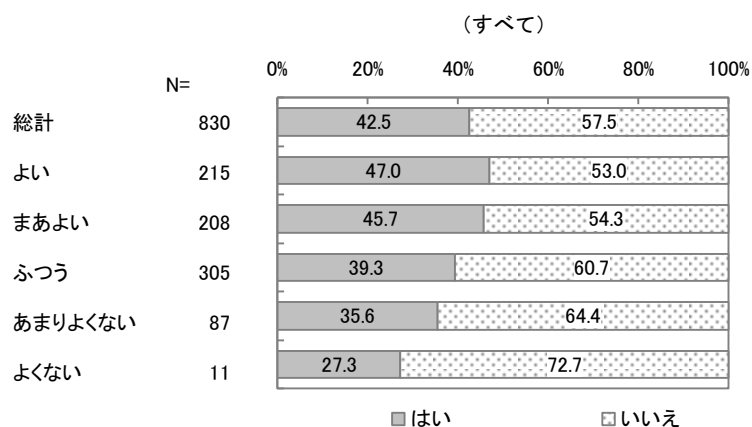
(8) かかりつけ歯科医の有無

年代が上がるにつれ、かかりつけ歯科医がある人の割合が高くなっており、60代以上では、約9割の人がかかりつけ歯科医があります。



(9) 「現在の健康状態」と「年1回以上の歯科健診の受診状況」

健康状態が悪くなるにつれ、歯科健診を受診していない割合が高くなっています。



資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成23年）

4 三島市歯科保健に関する課題

歯科保健に関する現状、医療に関する現状、アンケート調査の現状から、以下の三島市歯科保健に関する課題があげられ、それに対する施策を計画的に推進していくことが必要となっています。

(1) 健康な歯を育てることが必要

- ① 妊婦の歯科健診受診者は約1割と少なく、また、健診の結果、74%が異常ありとなっています。妊娠期はホルモンバランスや生活習慣の変化からむし歯や歯周病などにかかりやすく、また、生まれてくる子どものむし歯予防の出発点としても大切な時期であることから、この時期からの歯と口腔の健康づくり対策が必要です。
- ② 未就学児、小・中学生のむし歯有病者数の割合は、年齢が上がるにつれ高くなり、さらに、小・中学生ともに永久歯のむし歯有病者の割合は、県平均より高くなっています。また、幼児において、甘いおやつを与え始めた時期が早かったり、母乳や哺乳ビンの中止時期が遅すぎたりするほど、むし歯の割合が高くなっており、生涯を通じて健康な歯を保つためには、幼少期からの継続した予防対策が必要です。
- ③ 未就学児、小・中学生は、ほとんどが「朝食後」と「就寝前」に歯みがきをしており、未就学児や小学生については、仕上げみがきをする割合が高くなっています。また、年代が上がるにつれ、定期的に歯科受診する割合が高くなっています。そのような中で、小・中学生は、むし歯有病者の割合が高く、園、学校、家庭での継続的なフッ化物の利用、甘味の適正摂取、適切な歯みがきなど良好な行動習慣を身につけるための支援が求められます。
- ④ 成人において、むし歯や歯周病予防に有効な歯間ブラシやデンタルフロスの使用状況をみると、全体的に頻繁に利用されていない状況であり、歯間部清掃用具の使用法やその効果についての普及が必要です。
- ⑤ 定期的な歯科健診や歯垢や歯石除去の歯面清掃は、女性に比べて男性の受診率が低くなっています。また、歯を1日3回以上みがく割合や3分以上歯をみがく割合においても女性に比べて男性の割合が低く、男女の関心の差がうかがえます。今後、男女共に歯の健康づくりに関して、関心を高めていく必要があります。

(2) 健康な歯ぐきを育てることが必要

- ①自分の歯を20本以上有する人の割合は65～74歳で55.4%、75歳以上で28.1%と約半分に減少しています。8020運動を進める中で、歯を失うことなく、健康な歯と歯ぐきを保つために、日ごろの歯周病予防と定期的な歯科健診による早期発見・早期治療が重要です。
- ②定期的な歯科健診の受診状況において、特に男性20～30代では受診率が2割台、女性20代では約3割となっています。また、市が実施している歯周病検診の受診率も1割程度と低い状況であり、受診者の増加を図る必要があります。
- ③歯周病の理解度に関する設問の正解率は4問平均して約5割となっています。「わからない」と回答する割合が5割を超える設問もある為、歯周病に関する正しい知識の普及が必要です。

(3) 口腔機能を維持し、食べる喜び、話す楽しみを持つことが必要

- ①自分の歯を20本以上有する人の割合は65～74歳では55.4%ですが、75歳以上では28.1%と約半分に減少しています。また、口腔において機能低下の該当者が、特定高齢者になる割合は15.7%となっています。このような中で、よく噛んで食べることは生活習慣病予防となり、また、生活の質の向上につながることから、生涯を通じて健康な歯を維持し、食べる、話す等口腔機能の維持、向上が必要です。

(4) 障がい者や要援護高齢者の歯の健康づくり支援体制の整備が必要

- ①細菌が唾液や胃液と共に肺に流れ込んで生じる誤嚥性肺炎は、高齢者や嚥下機能が低下している虚弱者に多くみられます。予防していくためには、口腔内清掃などの適切なケアが必要であり、障がい者や要援護高齢者、その家族、施設などの介護職員へ情報提供を図り、支援していく必要があります。
- ②寝たきりなどの理由により、歯科受診が困難で治療を要する方は、介護支援専門員（ケアマネジャー）が把握しているだけでも111名います。障がい者や要援護高齢者、その家族に対し、寝たきり者歯科訪問調査など事業の周知を行うとともに、歯科医師、介護支援専門員、訪問看護師など関連職種や地域包括支援センターと連携し、地域包括ケア体制を構築していくことが必要です。

(5) 市民や関係機関と協働した歯の健康づくりが必要

- ①歯科保健に関わる多くの人たちと協働し、市民への支援体制を整え、歯の健康づくりを進めることが必要です。

